

環境コモンズの挑戦

苫小牧フォーラムから

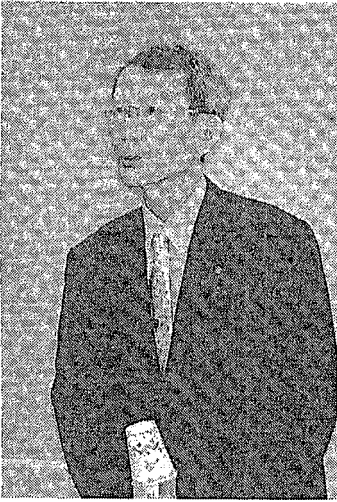
小磯修一・釧路公立大学長基調報告

①

地域の自然環境の保全と活用をテーマにしたフォーラム「環境コモンズの視点で見直す苫東の風土」(NPO法人苫東環境コモンズなど主催)が16日、苫小牧市サンガーデンで開かれた。3人の専門家の基調報告や講演の要旨を紹介する。

苫東地域は、1万畝を超える大規模な東洋一と

経済、環境的な価値生む空間



「コモンズは、自然を守りながら利用させてもらう仕組み」と話す小磯修一氏

苫東は工場を立地するための土地だが、豊かな基地と言われている

自然を守りながら利用させてもらう仕組みもここに入れたらどうか。土地の重層的な利用によって環境を守り、空間の価値

た。開発計画が策定されたのは1971年。72年に推進のための会社が出来た。苫東は1万畝を超す用

マだったわけでは。その後いろいろな曲折がありました。98年に苫東が破綻(はたん)しましたが、空間そのものは変

の活用をうまく引き込むことで、苫東の新しい魅力が出てくるのではないかと。苫東が北海道にとっても経済的、環境的な意

味で価値を生むのではなから会員募集を開始。今年度からやっと活動が始まりました。ミスナラやコナラ林の保全、フットパス(森林散策路)など市民にオープンな形で活用してもらったり、ヒグマの移動に関する情報収集や各種調査活動を、苫東の空間の中で取り組んでいくイメージです。

「コモンズは、自然を守りながら利用させてもらう仕組み」と話す小磯修一氏

地の約30%が緑地として残されています。世界的にも、工業開発の利用地に30%もの緑地がある例

わらないわけでは。苫東の空間というのは次の世代にどのようにつないでいくか。苫小牧地域の人が

2008年度、北海道開発協会がスタートしました。NPO法人苫東環境コモンズ発足のバックアップの位置付けです。すでに苫東地域では、20年以上前から森林愛護の活動があり、遠浅自治会も森林とのかかわりを持っていました。

苫東の中に風倒木などがあり、管理が必要な状況が今あるわけです。放つて置いていいものかどうか。いい意味での森林管理の取り組みが、何らかの形で必要じゃないかと思うのです。

を高めていく試みが、苫東環境コモンズという言葉の本で初めて環境アセスメントを取り入れたのも苫小牧。いわば環境とどう向き合うかが大きなテーマ

1万畝を超える苫東の空間には、いろいろな特徴があります。非常に土地利用規制が少なく自由度の高い空間。緑地空間

苫東環境コモンズは今月1月に法人登記し、4

管理の取り組みが、何らかの形で必要じゃないかと思うのです。

まれな「工業用地に緑地3割」

環境コモンズの挑戦

②

苦小牧フォーラムから

小磯修二・釧路公立大学長基調報告

今年春からNPO法人

苦東環境コモンズの会員と地元町内会が一緒にまき作りも始めています。

柏原、静川のフットパス人、活動資金で応援した(散策路)コースの整備やテストウォークも進められているところです。また、バードウォッチングやハスカップ摘みなどいろいろな活動が始まりつつあります。

どのようにNPO活動にかかわってほしいのか。会員と言っても、環境保全を実践する人、技術や資材を提供できる

課題は苦東らしい活動の追求

ちの力をどう生かしているかが、今後の大事なところだと思えます。NPO会員のメリットは、通年、活動場所にあ

ちの力をどう生かしているかが、今後の大事なところだと思えます。NPO会員のメリットは、通年、活動場所にあ

ちの力をどう生かしているかが、今後の大事なところだと思えます。NPO会員のメリットは、通年、活動場所にあ

ちの力をどう生かしているかが、今後の大事なところだと思えます。NPO会員のメリットは、通年、活動場所にあ

ちの力をどう生かしているかが、今後の大事なところだと思えます。NPO会員のメリットは、通年、活動場所にあ

人、活動資金で応援した人などさまざまなタイプがある。こういう方を優先的に利用できる。

これからの課題は、NPO活動の担い手を幅広く募ることができるか。どう財源を確保するか。

これからの課題は、NPO活動の担い手を幅広く募ることができるか。どう財源を確保するか。

土地所有者の苦東との関係づくり、他のグループとの連携によって、この地域の価値を高めていく。

土地所有者の苦東との関係づくり、他のグループとの連携によって、この地域の価値を高めていく。



「共用システムの展開が大事」と話す小磯さん

会員の千差万別の力を生かす

実践的に苦東らしい取り組みをどう展開するか。大きな課題だと思えます。限られた地球資源の中で、どう人類は生き抜く知恵を持つべきなのか。コモンズは共用、共同管理、共同使用などいろいろな意味で使われ、しっかりと定義はないけれど、連携や協働の大切さが叫ばれているように、コモンスティックなコンセプトは大事と思うのです。日本の場合、土地利用というものに対して、土地の所有権が極めて強くなる概念になるのではないかと考えます。

地域

環境コモンスの挑戦

③

苦小牧フォーラムから

三膳時子・NPO法人霧多布湿原トラスト理事長



釧路管内浜中町の霧多原とも呼ばれています。布湿原は3160畝の広湿原保護の活動は24年前大な湿原です。「花の湿原」から始まりました。20

00年にNPO法人となり、地主さんに「湿原を買いますので譲ってください」と手紙を出しました。切にしています。ガイドによる湿原の説明と交流したいという気持ちがあるようで、わたしは、とても助かるし、24年やってこれたのは、地域の築いた信頼関係もあって、霧多布へ遊びに行こうという人たちの集まりがファンクラブなんです。その期待を裏切らないよう、わたしたちも子供たちと一緒に汗を流して、霧多布にかかわることが、とてもうれしいです。

増加する霧多布湿原ファン

ファンクラブの人たち

霧多布湿原のファンは、情報発信や環境教育、や酪農家さんが説明してくれる方が、ファンづくりにとても有効です。ファンクラブが北海道、東京、鹿児島、博多にあるなど、全国に2800人の会員がいます。会員による「てみようよ」のような誘い方をしてくれて、ツアードという形で訪ねて来てくれるんです。ファンクラブは何をするかと言つと、とにかく、とてもうれしいです。

地元の人との交流を大切に

「ファンの力はとても大きい」と話す三膳時子氏
わたしたちの団体の若い職員が地域に溶け込んでいくために、地元理事と一緒に行動すると、住

環境コモンズの挑戦

④

苦小牧フォーラムから

三膳時子 NPO法人霧多布温原トラスト理事長

霧多布を訪れるファン

クラブツアーの人たちに
対しては、地元のチーズ
と牛乳などを使い、クラ
ムチャウダー的なものを
作っておもてなししま
す。それが一番のごちそ
うになるんです。牧草地
の片隅で、ランチを楽し
みます。

海に行つてウニの漁師
さんから説明を受けた
り、無人島に上陸してウ
ニむき体験とウニ丼を作
つて食べるプログラムも
あり、とてもぜいたくな



ツアーができるんです。

エコツアーで地元産業も紹介

わたしたちが考えてい
るのは、地元の産業も一
緒で紹介したいというこ
と。町の酪農と漁業を紹
介して、初めてエコツア
ーなんじゃないかなと思
います。産業が元気でな
いと、わたしたちのNP
O活動はできないなと思
っています。わたしたち
が間に入り、地元の産業
と、町への来訪者をつな
ぎたいです。

「子供と一緒に」の環境教育目指す

という思いがあつて、地
元の物産を紹介するため
ミュージアムショップを
開いています。子供たち
と一緒に環境教育を目指
して、触れる環境をつ
くりたいという人が
増えて、感じています。

開いています。せつかく温原がある町
なのだから、子供たちに
教えていきたいという思
いがあります。霧多布
温原センターの指定管理
者となりました。町の
お母さんたちがおいしい
牛乳やコンブを売りたい
という思いがあります。

「町の産業も紹介した
い」と話す三膳さん
が何枚あるかと植物に触
れるエリアがあつていい
この時期、霧多布温原
されます。

定管理を受けて、自分た
ちの事業が広がり、何よ
り子供たちへの環境教育
がでるんじゃないかな
というので、5年が過
ぎました。300円の売上金で、6
畳分の面積の温原が保全
されます。

環境コモンズの挑戦

⑤

苦小牧フォーラムから

宮本英樹・NPO法人ねおす専務理事

地域力と環境保全をど

うつなぐか、地域の人た

ちの認識をどのように環

境に向けていくかについ

てお話ししたいと思いま

す。わたしは北海道の自

然を生かした新しいこと

をしたいと思います、NPO

法人ねおすに参加しまし

た。その時、父から勸当

を迫られたり、近所の人

から「自然はごにでも

あるのだから、仕事にな

るわけがない」と言われ

ました。

彼らをどう説得しよう

かと考え、なるべく地元



価値を求めめる人に本物提供

に小遣い程度でもお金が
落ちるようなエコツアー
を始めました。それがう
まくいぎ、今では田舎に

帰ると「いい仕事してる
ね」と言われます。
僕は常に地域振興や環
境保全をイメージしてエ

問題と人々を結び付ける
ための道具として使うの
していくことになる。
「エコツアーリズム」つて、
ツアーを通じて情報
発信などができる利点が
もうかるの」と経済系の

で、だから環境も大切に
する。エコツアーの参加者
は、本物を求めるような
環境を大切にするといい
人たちがいます。価値のある
心がないと、うまくいか
ない。ものを探したい人た
ちな

の目玉にしようとしてしま
た。しかし、委員会がで
きて、学識経験者から地
域住民がブナ林をどう使
うかが大事な問題だ」と
言われました。

エコツアーを実施していま
す。地域住民が元気にな
り、自分たちで何かを考
えるようになればと考え
ています。

あるからです。

学者に言われますけど、ブ
ナ林に行つたことのない
人もいます。その土地を
利用している人が考えれ
ば、適正な土地利用の計
画ができる。利用者によ
る環境管理を目指すよう
になりました。

僕には違和感がありま
した。町民もいろいろと
意見を言いますけど、ブ
ナ林に行つたことのない
人もいます。その土地を
利用している人が考えれ
ば、適正な土地利用の計
画ができる。利用者によ
る環境管理を目指すよう
になりました。

なぜエコツアーを環境

「環境を大切にすると心

がないとエコツアーは

うまくいかない」と話

す宮本さん

地域住民が元気になる活動を

環境コメンズの挑戦

⑥

苦小牧フォーラムから

宮本英樹・NPO法人ねおす専務理事

登別市ネイチャーセン ター「ふおれすと鉱山」 その欲求に応えるよう
を立ち上げる時、地域住 な運営や設計をすれば、
民からさまざまな要望が 地域の人たちとつながっ
寄せられました。自由に て環境保全ができるので
使わせてほしいとか、お はーと感じています。
れたが先に使っている、 誰かが偉いのではないな
とか。要望は裏を返せば、 つなかりを生みやすいと
コミュニティーを守りた 思っています。地域住民
い、いろいろな人とコミ 管理者、行政であっても
ユニケーションを取りた 環境を利用する点では同
いという考えにも取れま じ利用者なんだという視
す。自「実現や社会参加 点でない」と、なかなか参
共通の思いを持っている 入と仲間になりたいとい
う欲求がすごく強いよう なのです。

「自然を共有する」には
ルール作りが大事」と
話す宮本さん



共通項で大きな目標を

加しづらと思います。 大事だと考えます。 自然環境について知ら いろいろな目的で入って ない人も多いので、利用 くる方がいますので、共 者の学習機会を確保す 通の大きな目標を見つけ る。自然を当たり前だと する作業は、コーディネー 思っている人には、大切 ターにとって大切です。 さを知ってもらえるよう こととしては、過去の成 績にする。そうしたことが 功例が地域内にあるかど

うか探して、それを共通 掘り下げて共通項を見つ 項にする。 けるか、NPO同士でも みんな同じ未来を見 同じです。やっているこ ことは不可能だけど、 とは違うけど、環境を守 っていることは同じ。そ 過去の成功例は何となく のような共通項で、大き 共有しているのです、あの 画像で見つけることが が分かりやすいのかなど 大事です。

り、管理することが大事 かなと思っています。 コラボレーション(協 働)の時代と言われます。 これまでは共同で一つの 作業をするのが仲間だっ たと思うんですけど、今 は劇場で劇を作るよう な、ばらばらの人と結び 付けて一つの何かを作り 上げるのが大事だと思っ ています。

思います。 自然を共有することほ 苦東の森でも、多様な 人が何となくかまどめ、新し

ここ20年くらい、個性 まで自由で、個人の裁量 いものを作っていく。そ たので、みんな人と違っ が認められるのが問題 うしたこと、いろいろな ことを言えるようになって きます。コモン 人がかかわってくるのか たが、逆に同じだとと言 ずの役割ですけど、中心 など思っています。

平等性、学習機会の確保が大事

(おわり)